



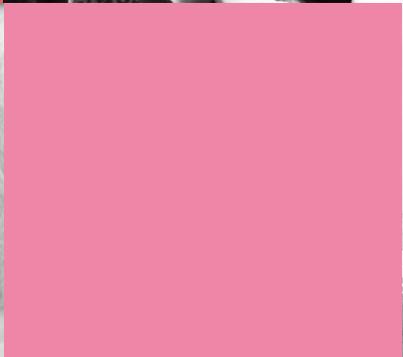
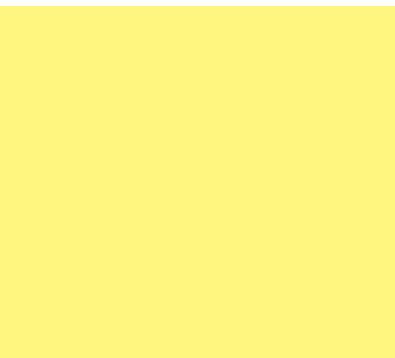
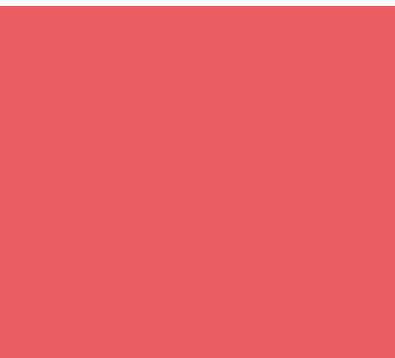
ISSEIKAI

40th ANNIVERSARY

REIMEI 100th



社会福祉法人一誠会 40周年記念誌





偕楽園ホームは2020年3月で創立40周年を迎えることができました。これも、ひとえに皆様方の温かいご支援とご指導の賜と心より感謝申し上げます。

偕楽園ホームは、1980年に八王子市で八番目の特別養護老人ホームとして宮下町に開設いたしました。名称である「偕楽園」には、法人の創設者である新谷義克現参与の「みんなが集まって楽しく生活できる場所」にしたいとの思いが込められています。

それから40年余り。定員100名の単独特養からスタートした一誠会も、措置制度から介護保険制度へという大きな変革の波を乗り越えて徐々に事業を拡大し現在に至っています。特に、2018年には偕楽園ホームのある宮下町に隣接する加住町に、国が進める「地域包括ケアシステム」の拠点とすべく地域密着型特別養護老人ホーム、看護小規模多機能型

40周年記念誌発刊に寄せて

社会福祉法人一誠会 理事長 **鈴木康之**

居宅介護事業所を中心とする第二偕楽園ホームをオープンすることができました。また、2020年度からは大和田地区で地域包括支援センター大和田(仮称)を八王子市から受託することが決まっています。従いまして、今後一誠会は、初音の杜を含めたこの4拠点の連携を密にして八王子市の高齢者福祉を支えていきたいと考えています。

また、一誠会は、全事業所で国際品質規格であるISO9001を取得していますが、ISOが事業所に求める品質方針(運営方針)の一つに「地域社会への貢献と共生」を掲げています。これは、一誠会が地域住民の方々にとってなくてはならない事業所づくりを目指すという地域の方々への約束と宣言でもあります。ご利用者が、ひいては地域の方々は何を

望んでいるのか、今何をしてさし上げたから一番喜んでいただけるのかを常に考え、サービスを提供していく所存でございます。

福祉を取り巻く環境はますます厳しくなることが予想されますが、今後もスタッフ一同、ご利用者はもちろんのこと、地域の方々の要望を的確に捉え、それを適切にサービスに反映することで地域に貢献していく所存ですので、引き続き皆様方のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

すずきやすゆき ●1956年、東京都葛飾区出身。86年、帝京大学医学部医学科卒業。87年、同大学第三内科入局。94年、新台病院副院長、98年、社会福祉法人一誠会偕楽園ホーム配置医、99年から配置医兼産業医。2005年、社会福祉法人一誠会理事長に就任。現在に至る。



社会福祉法人一誠会 40周年記念誌

CONTENTS

- 1 40周年記念誌発刊に寄せて
 - 挨拶 理事長 鈴木 康之
 - 創設者・参与 新谷 義克
 - 祝辞 社会福祉法人 土屋 大二郎
五常会理事長
文部科学大臣・ 萩生田 光一
衆議院議員
衆議院議員 安藤 高夫
- 6 一誠会40年の歩み
『黎明』と共に振り返る
- 10 特別対談
鈴木康之一誠会理事長×石森孝志八王子市長
- 14 一誠会が目指す未来像
- 16 一誠会で働く仲間たち
- 20 若手・中堅クロストーク
- 24 数字でわかる一誠会
- 26 一誠会で働く1日
- 28 一誠会の地域貢献活動
- 30 魅力あふれるボランティア活動
- 32 施設概要
- 33 編集後記



私たちは、次の法人の理念と品質方針を、
偕楽園ホーム、第二偕楽園ホームならびに初音の杜の旗印、
そして業務の道しるべとして、遵守します。

理念

安心・安全・愛情

品質方針

- 一、私たちは、関係法令・規準を遵守し、コンプライアンスを尊重した運営を行います。
- 一、私たちは、ご利用者が個人の意思と可能性が尊重され、自立したその人らしい生活を、地域社会で営むことができるよう、援助します。
- 一、私たちは、事業の高い公共性と倫理性を自覚し、開かれた施設運営と経営の透明性に努めます。
- 一、私たちは、地域社会への貢献と共生に努めます。
- 一、私たちは、広い視野とプロフェッショナルとしての専門性を高めるため、研鑽と努力を惜しまず、常に介護サービスのあるべき姿を提示します。
- 一、私たちは、一誠会に寄せられる貴重なご意見、ご批判などを真摯に受け止め、品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善し、常に成長し変化し続けながら、一貫した高品質のサービスを提供する一誠会ブランドを構築します。

創設者挨拶 ～40周年記念誌発刊に寄せて～



社会福祉法人一誠会
創設者・参与

新谷義克

しんやよしみ ● 1932年、北海道函館市出身。56年、早稲田大学法学部卒業。60年、東邦大学医学部卒業。61年に東京警察病院外科入局。69年、東京都府中市に新谷医院を開院。80年、特別養護老人ホーム偕楽園ホームを八王子市に開設。新谷医院院長、戸井福祉会理事長、はこだて観光大使に就き、現在に至る。

偕楽園ホーム創設40周年を迎えられましたこと、御同慶の至りです。現在までホームを支えていただいた歴代の施設長はじめ、職員の皆様に心より感謝いたします。私がホームを開設したころは開業医として医院を発展させ、病院にすることがサクセスストーリーの一つでした。私も当時そのような考えでした。そんな折、ファミリーの集まりで姉の吉井聆子（初代潮寿荘施設長）が、これからは福祉の時代が来るというサジェッションをしてくれました。それがきっかけで私はホームづくりを指すようになりましたが、それには何が必要で、どんな手続きをするのか全くわからない素人でスタッフもない状態でしたから、大

変なことでした。

役所（当時は東京都庁）に通い、手続きを教えてもらいました。土地を用意しなければならず、八王子の不動産屋の案内で多摩地区の5〜6カ所の土地を見に行きました。五日市の土地を見に行った時など雨が降り出し、地主さんに長靴を借りたことなど、懐かしい思い出です。現在の土地は市街化調整区域で八王子信用金庫の所有でした。やっと土地を確保しましたが、地域住民の皆さんへの説明会でも大変でした。老人がうろろうる歩きまわるのが嫌だとか、建物が建つと景色が悪くなることなど、建設反対の声があり苦労しました。開設の負担金を用意し建設に着工した時は、ホッと

たことを思い出されます。

その後、昭和59年に姉の山本久子の要請で中津川市に瀬戸の里ホーム（五常会）、そして同じく瑞浪市にみずなみ瀬戸の里を創設。その後、岐阜県の要請で二ツ森ホームを合併、また私の故郷函館には潮寿荘（戸井福祉会）を創設しました。

現在、理事長は潮寿荘のみで、八王子・岐阜の法人は次世代にバトンタッチしました。両法人ともよきスタッフに恵まれ、特に一誠会では第二偕楽園ホームを設立し、発展していることは法人創設者として大変うれしいことです。

今後も地域のよりよい福祉に取り組み、発展することを期待しています。

お祝いの言葉 ～40周年記念誌発刊に寄せて～



文部科学大臣・衆議院議員

萩生田光一

はぎうだこういち ● 1963年、東京都八王子市出身。八王子市議、東京都議を経て2003年に衆議院議員当選。現在5期目。19年、文部科学大臣に就任。

社会福祉法人一誠会が創立40周年という輝かしい節目を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。今日の鈴木康之理事長をはじめ、全ての職員の皆様に改めて敬意を表します。

昭和55年に八王子市宮下町にて特別養護老人ホーム偕楽園ホームの事業を開始され

て以降、平成23年には初音の杜、平成30年には第二偕楽園ホームを開設されており、平成を通して八王子市の地域密着型介護サービスに取り組み、地域包括ケアシステムを担ってこられました。令和を迎えた今日、未曾有の超高齢社会に突入し、介護サービスの重要性が高まる中、市民にとってな

この度、社会福祉法人一誠会偕楽園ホームが設立40周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

高齢者福祉を通じて社会貢献すべく一誠会を立ち上げられた新谷初代理事長（現参与）をはじめ、関係者の皆様の決断と先見の明に、また今日まで幾多の困難や試練を乗り越え地域福祉と事業充実に邁進された歴代理事長、施設長や職員の皆様のご尽力

に深く敬意を表する次第です。

安心・安全・愛情の経営理念の旗の下で、鈴木理事長、水野常務理事の強力なリーダーシップにより、福祉向上を通じた地域社会への貢献、介護サービスの質の向上、業務の生産性の引き上げ、働きやすい職場環境づくりなどに着実に成果を上げられており敬服しております。特に認知症高齢者支援業務への積極展開や、ISO9001の導入などに先駆的に取り組まれ、さらに第二偕楽園ホームを中心とした複合福祉施設の開設や地域包括支援センター受託に向けた積極的な挑戦など、貴法人の理事の一人として、また姉妹法人の理事長として大変頼もしく、誇りに思う次第です。

一誠会の分身とも言える岐阜県中津川市に本部を置く私ども五常会は、創設以来職

員の研修やさまざまなノウハウ・情報提供などをご支援をいただいております、有難く厚く御礼申し上げます。

この度、一誠会の設立40周年を機に新谷参与のご意向を踏まえ、水野常務理事のご提案で、同じく姉妹法人である戸井福祉会を含め広域での「災害緊急時等における相互支援協定」を締結することになりました。我が国の社会保障関係財政並びに介護職をはじめとする福祉人材需給の一層の逼迫が予想される中、さらなる効率化・生産性向上が求められるのは必至であり、規模のメリット、シナジー効果を図るべく是非連携を密にし、より緊密な協力関係を築いて参りたいと思います。

末筆ながら、一誠会の益々の発展と皆様のご活躍を衷心よりお祈り申し上げます。



社会福祉法人五常会 理事長
社会福祉法人一誠会 理事

土屋大二郎

つちやだいじろう ● 1945年、東京都中野区出身。68年、東京大学文学部社会学科卒業。69年、三井銀行に入行。2015年に社会福祉法人五常会の理事長に就任。

この度、社会福祉法人一誠会偕楽園ホームが設立40周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

高齢者福祉を通じて社会貢献すべく一誠会を立ち上げられた新谷初代理事長（現参与）をはじめ、関係者の皆様の決断と先見の明に、また今日まで幾多の困難や試練を乗り越え地域福祉と事業充実に邁進された歴代理事長、施設長や職員の皆様のご尽力

なくてはならない介護施設として、益々存在感を増しております。

また、介護の需要が高まり、社会福祉法人一誠会におかれましては、事業の拡大を図られています。その一方で、「安心・安全・愛情」の理念のもと、利用者の皆様一人ひとりに合わせたテーラーメイドな介護を提



衆議院議員 安藤高夫

あんどうたかお ● 1959年、東京都渋谷区出身。医療法人社団永生会理事長。東京都医師会理事。2017年の衆議院議員総選挙で初当選し、現職。

創立40周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

社会福祉法人一誠会様が「安心・安全・愛情」の理念のもと、八王子市に密着し、ご利用者様・ご家族様の心に向き合い、さまざまなニーズや想いに対応していらっしゃることに、心より敬意を表します。

高齢者の生活を支えながら、介護ロボットやアニマルセラピーの導入など、先進的

供していらっしゃいます。介護にかかわる不安の解消をすべく、非常に質の高い介護サービスの提供にご尽力をいただいております。市民の一人として大変心強く感じます。鈴木理事長におかれましては、八王子の地域医療、介護を牽引する立場におられます。今後も一層の躍進を祈念すると共に、

な取り組みを数多くされています。貴法人の取り組みは多くの介護施設が目にしており、今後、多くの施設でも導入されていくでしょう。また、一昨年には介護・医療・保育・住宅の複合型施設を開設されました。高齢者と子どもとが一緒に過ごすことは、双方にとっても大切な体験になると、私も常日頃から感じています。国の施策は、高齢者を対象とした地域包括ケアから、子どもや障害者などを含めた全ての人を対象とした地域共生社会へと移りつつあります。こうした施設の開設は、時宜を得た大変素晴らしいものであり、地域福祉の拠点となっていくと思います。

貴法人は、八王子市の高齢者を医療と介護の立場から支える心強い仲間であると同時に、八王子市における地域包括ケアシス

職員の皆様には社会福祉法人一誠会の歴史と信頼に裏打ちされた現場力を誇りに、引き続き市民の健康を守ってくださいますようお願い申し上げます。

テムを築くうえで大きな存在であると、心より尊敬をいたしております。私どもも貴法人をお手本に、医療・介護を始点とした街づくりを学んで参りたいと思っております。

最後になりましたが、貴法人の益々のご発展と、皆様のご活躍を心から祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



一誠会 40年 の歩み 『黎明』と共に振り返る

1979 (昭和54年)

一誠会設立

地域社会や家族形態の変化を見据え、地域社会に貢献できる事業として一誠会を設立

1980 (昭和55年)

偕楽園ホーム開設



特別養護老人ホーム偕楽園ホームは、介護保険制度が始まる20年前から事業を開始しています



1985

(昭和60年)

入浴事業等をスタート

八王子市とショートステイ、寝たきり老人等入浴事業の委託契約を締結しました

外出行事は日帰りと一泊旅行がありました。かつて、一泊旅行でご利用者100人中99人が参加されたこともありました。



比原良一さん

偕楽園での思い出

(平成8年)

20年前に働いていた職員が、現在再び働き始めています

縁あって再び職員として働くこととなり、懐かしくもあり、新鮮な気持ちです。



杉田(旧性斎藤)しのぶさん

『黎明』創刊号 発行

(平成7年)

ご利用者の要望で広報委員会をつくり、広報誌を発行しました。俳句や外出行事を振り返りながら制作した思い出があります。



丸山(旧性斎藤)明子さん

一誠会のこれまでの歩みを、広報誌『黎明』の記事と合わせて振り返ります。『黎明』に関わった職員やご利用者、現在の広報委員の声も併せて紹介します。

1991 老人短期入所事業開始

(平成3年)

地域からの要望なども踏まえて、短期入所事業を開始しました



黎明
第5号

1996 多様な行事を実施

(平成8年) 比較のお元気な方が多い時代は、一泊旅行などさまざまな行事を実施していました



黎明
第7号



茶道教室

1988年から続く茶道クラブは、ご利用者の要望から誕生しました



1997

(平成9年)

毎回、季節の練り切りをお菓子屋さんまで行って用意していました。とても喜んで下さったので、はり合いがありました。



衛藤シズ子先生

黎明
第4号

1996



黎明
第19号



2001

(平成13年)

初めて自衛消防訓練審査会に参加した時は、とにかく必死で練習し、身体で手順を覚えめました。その経験が今でも生きております。



山口政志さん

自衛消防隊が準優勝

自衛消防隊の活動は現在も継続中。介護以外の分野でも地域を支えています



黎明
第1号

1995



当初の題字はご利用者からの投稿によるものでした

2006

(平成18年)

大規模修繕

開設から26年が経過したタイミングで、空調設備・浴室の特殊浴槽の入れ替えなど、ご利用者の快適な生活を維持するための修繕を行いました



2011 (平成23年)

初音の杜開設

認知症対応型通所介護、グループホームを開設し、認知症の方の幅広い受け入れを開始しました

四月一日オープン
一階が「デイサービスセンター」初音の杜で、二階が「認知症対応型通所介護」を行います。スペースにゆとりがありますので、定数は今後増やしていきます。二階はグループホーム初音の杜で、二ユニット、一八人の定数です。



2008 (平成20年)

長きにわたり支えるボランティア活動

1996年より、華道クラブの講師として活躍されている植田京子先生。2008年からは、衛藤先生からバトンを受け取り茶道クラブの講師として現在も活動継続中です



植田京子先生

色々な方との出会いを大切に、一回一回の活動を大切にという思いで続けてきました。一期一会という言葉を感じます。



2007 居宅介護支援事業開始

(平成19年)

在宅生活を続けている地域の方を支えるため、居宅介護支援事業を開始しました

居宅介護支援事業所
一月より運営
一月に「介護支援センター」を開設して、まもなく三か月です。新年早々、この地域を運営している左大臣型在宅介護支援センターをはじめ、近隣の介護関係の事業所や病院を訪問し、皆様から寄せられた期待の大きさを感じました。そして地域介護の輪に知り、介護を通じて地域のお役に立てることに胸を膨らませる思いでもありました。次々にいたたく相談で、ケアプランに上



一誠会を振り返りつつ、未来の一誠会をお示しできたかと感じています。引き続きよろしくお願いたします。
(菊池正彦さん)



広報誌という意味では、日常を切り取る難しさを感じています。ご利用者への情報伝達のツールから地域へのPRの手段にも変わってきていて時代の流れを感じます。
(佐々木信雄さん)



2014

(平成26年)

黎明を大幅 リニューアル

写真も多く活用し、
より読みやすくなる
ように工夫しました



2018 第二偕楽園ホーム開設

(平成30年)

地域密着型特別養護老人ホームや訪問看護ステーション、サービス付き高齢者向け住宅を併設した複合施設を開設。新たなスタートを切りました。また、偕楽園ホームに定期巡回・随時対応型訪問介護看護などの訪問事業も開始しました。



黎明
第92号



2020 地域包括支援センター 大和田(仮称)開設

(令和2年)

地域包括ケアシステムの要となるべく、介護・医療・住まい・介護予防・生活支援を一体的に進めるとい地域包括ケアシステムの実現に向け、取り組んでいきます。



皆様の長年にわたる温かいご支援ご指導により今日を迎えることができました。心から感謝申し上げますとともに、次のステップに向けましても、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。
(沢田敏彦さん)

『黎明』では「ロコの部屋」などを担当しています。柔らかく緩いくらいの表現で気楽に読んでもらえるように努めています。

(小室博英さん)

昨年、訪問介護も始まりました。この40年の歩みを閉ざさぬよう、もっと地域の方に安心と笑顔を届けていきます。

(安部雄治さん)



『黎明』広報委員コメント

『黎明』の第二偕楽園ホームの特養通信の担当です。ご家族、地域の皆様と新しい歴史をつくれたらと思います。
(廣田貴弘さん)

40周年記念号の『黎明』が刊行されたこと、編集に関わったものとして大変嬉しく思っております。
(三輪隆太さん)

＜石森孝志八王子市長

介護まで 八王子を支える



八王子市長
石森孝志

八王子を市政の面から支える石森孝志市長と鈴木康之理事長が、これからの八王子をどのように支えていくかについて、対談を行った。

健康寿命の延伸に 行政と共に力を入れる

——現在、八王子市における介護の課題には何がありますか？

石森市長（以下、石森） 八王子市として取り組んでいるものは、健康寿命の延伸ですね。現在、老老介護^{※1}やダブルケア^{※2}といった問題が、当市でも深刻になっています。そうした状況に陥らないためにも、要介護状態でもなく、人の手を借りることもなく生活できる健康寿命の期間を、少しでも延ばすことが大切になっていると、市としても認識しています。

特に、介護予防の充実という点は重視しています。お元気な方だけではなく、介護が必要になっている方に対しても、今以上に重度化させないための取り組みが必要だと考えています。

鈴木理事長（以下、鈴木） 介護予防に関しては当法人でも様々な取り組みを行っています。たとえば、介護予防教室「楽らくサロン」という取り組みは毎週火曜日に、地域の方に当法人に来ていただき体操をし、参



理学療法士とボランティアさんとで開催される「楽らくサロン」。地域の憩いの場になっています

加者全員で食事をしてもらうというものです。栄養をつけないと筋肉も落ちるといったことを啓発する意味でも続けています。

介護が必要になる前から サポートできる体制構築

——介護予防の取り組みとしては、ほかに何をしていますか？

鈴木 在宅生活での不安を軽減するため「配食サービス」と「24時間電話相談」という取り組みも行っています。前者は、安否確認はもちろん栄養バランスが良い食事をしっかりとご自宅までとっていただきたいという願いから始まりました。後者では、24時間365日で当法人のケア

特別対談 | 鈴木康之一誠会理事長 >

日々の暮らしから 幅広い取り組みで

この地を支えて40年
介護の魅力が
伝わる
八王子へ



社会福祉法人一誠会 理事長
鈴木康之一

マネジャーや生活相談員が介護に関する悩みや相談に対応しています。

石森 運動・栄養・社会参加といったものが網羅された事業になっていきますね。ぜひ、市民の皆さんにもこうした活動の意味を理解していただき、介護予防に取り組んでもらいたいです。

鈴木 私が認知症サポート医^{※3}のため、認知症対応型通所介護^{※4}事業をはじめとする各事業で、認知症症状を緩和するために有効とされるケアに取り組んでいます。非薬物療法としてアロマセラピー^{※5}やタクティールケア^{※6}などを実施するほか、認知症症状に応じてケアを実践し、月に一度は私自身も認知症のご利用者に関するカンファレンス（会議）に参加して、医療的な側面からも介護職員にアドバイスをして、ご利用者の生活を支えています。

介護が軽度の状態から、重い状態になっても、認知症の症状に応じて生活が続けられるように介護の負担がかかることを軽減するケアを提供していきたいと考えています。

介護の仕事を目指す人が
増える環境をつくる

—そのほかに介護現場の課題
はありますか。

石森 介護人材の確保が、当市でも大きな課題です。様々な施策を講じて、確保するための努力を行っています。たとえば、市内の介護事業所への就労を希望する方を対象に「ゼロから学ぶ、介護のしごと入門研修」を実施し、介護人材の裾野を広げる取り組みを展開しています。これは、介護に関する入門的研修^{※7}に位置づけられており、都内で最初に当市が手がけたものです。この研修を受けたのち、専門職へとステップアップしてもらいたいと考えています。

また、その専門職へのステップアップを支援するために八王子市介護人材資格取得支援事業補助金制度をつくっています。初任者研修や実務者研修、介護福祉士資格の取得に必要とされる教材費や受験料などの全部または一部を補助するものです。資格取得の後押しをすること



八王子市の後援のもと「八王子介護フェア」を開催。八王子市高齢者いきいき課長にもご挨拶をいただきました

ナーも設けているため、多くの方に来場していただいています。

石森 介護事業者の方に自ら地域の方向けのイベントを行っていただけるのは、とてもありがたいですね。市としても頼もしく感じますし、もっと広まると良いと思います。

質の高い介護ができる人材を育てることに尽力

で、介護技術のスキルアップを図っていただきたいと考えています。

鈴木 当法人でも、あらゆる方々に啓発することを目的に、「地域交流会」という形で講演会を独自で実施しています。多くの人に介護に関心をもっていただきたいと思っています。

さらに年に一度、市内の2つの法人と共に「八王子介護フェア」を2016年から開催しています。介護に関する講演会や介護体験会、施設でつくった作品の展示などを行っています。介護保険の申請の仕方や、どのような介護を市内で受けることができるのかなどの相談コー

——介護人材に関しては、外国人材の活用や育成の仕方など、いろいろなトピックスがあります。

石森 八王子市では、外国人介護人材の確保にも注力しています。2019年度からは、市内

の日本語学校と連携をして、介護職を目指す外国人のための日本語教室を開講しました。現在、約40人の若い外国人の方が介護現場で必要とされる日本語の能力を磨いています。それは、外国人同士のコミュニケーションの醸成にもつながっています。

鈴木 外国人介護人材に関しては、当法人でも積極的に迎え入れようと考え、現在準備中です。多くの人が介護の現場で働ける

ような環境づくりに注力しています。

さらに、優秀な人材は、集めるだけでなく育てることも重要です。当法人では、介護の質を高めるための職員向けの勉強会などを積極的に行い、介護職員のレベルを上げることがとても重視しています。私自身が医師ですので、医療的な観点からアドバイスできるのも、当法人の強みになっていると思います。

たとえば、年に一度、各部署でケアの成果を報告する実践研究発表会を行っており、看護課においては、骨粗しょう症の薬を飲むことや皮下注射による治療でどれだけ骨折予防につながるのかの研究発表も予定しています。ケアや医療を提供するだけでなく、日々の業務がどのような成果につながっているのかを、広く示したいです。

石森 介護だけでなく、医療部門でも充実した取り組みを行っているのはとても頼もしいです。こうした取り組みを市内にも広げていき、八王子市全体の福祉の充実につなげていきたいですね。

介護の魅力を広く伝え学生などにも届ける

——介護事業者と地域の関係をどのように考えていますか。また、行政としてはどのようなことに期待をしていますか。

鈴木 介護現場の様子を理解してもらうことが大切だと考えています。前述の「八王子介護フェア」では、近くにある大学の学生さんなどにも参加していただきました。若い人たちに介護の仕事の必要性を実感し、働きたいと思ってもらえるようにすることに力を入れています。

石森 八王子市は全国有数の学園都市ですし、最近では学校側も学生を地域と交流させたいという思いもついています。行政と



法人内研修では、八王子市高齢者福祉課の職員に地域包括ケアシステムについて講演いただきました

特別対談 | 鈴木康之一誠会理事長 × 石森孝志八王子市長

しても、学生が地域に出てきてくれるのはありがたいですし、活性化に結びつきます。

鈴木 当法人では、定期巡回・随時対応型訪問介護看護^{※8}や看護小規模多機能型居宅介護^{※9}など、住み慣れた家で暮らし続けるためのサービスも実施しています。さらには、2020年度から地域包括支援センター^{※10}の運営を受託することになりました。これにより、介護が必要となる最前線の地域の人の声やつと聞ける体制になったかなと思います。在宅で最期まで過ごせるような仕組みづくりにより、より力を入れていきます。

石森 当市は市域が広く、それぞれの地域特性もあります。特に一誠会さんがある地域は人が多く流入するところではないので、地域のことをよく知っている法人が長く地域を支え、そこに密着した取り組みを行ってこれていることはとてもありがたいことだと思います。

鈴木 地域の状況を市側もよく理解していただいていると常々感じています。特に都内唯一の地域密着型サービス^{※11}に対する

市独自の補助金制度があるからこそ、こうした取り組みができるのだと思います。当法人含めて行政からの支援があつてこそ、八王子市の介護を充実させることができると考えています。

石森 一誠会さんは様々な事業展開されていますので、八王子市のほかの法人にも広まっています。

鈴木 医療・介護といった専門的などころから、暮らしの部分まで、幅広く地域を支えています。ありがとうございます。



石森孝志
(いしもりたかゆき)

●1957年8月8日、東京都八王子市出身。八王子市立加住小学校を経て明星中学・高校・大学(経済学科)を卒業。東京都経済農業協同組合連合会(現全農)10年勤務、八王子市議会議員3期、東京都議会議員2期、都議会環境建設委員会理事を経て、2012年1月、第29代八王子市長に就任。2015年4月に初代中核市八王子市長、2020年1月に3選を果たし、第31代八王子市長に就任。

- ※1 老老介護 高齢者同士で行う介護のこと
- ※2 ダブルケア 育児と介護を同時に行うこと
- ※3 認知症サポート医 認知症対応に習熟した医師で、認知症サポート医養成研修を修了し、かかりつけ医への助言等の支援を行う医師のこと
- ※4 認知症対応型通所介護 認知症の方に対して、入浴や排泄、食事などの介護や生活などに関する相談、健康状態の確認、機能訓練などをを行うものでリラックス効果やストレス緩和を図る取り組み
- ※5 アニマルセラピー 動物と触れ合うことでリラックス効果やストレス緩和を図る取り組み
- ※6 タクティールケア 手で触れるなど、肌を通じたコミュニケーションに重点を置いた認知症の緩和ケア
- ※7 介護に関する入門的研修 介護未経験者向けの基本的な研修。1日(3時間)や1週間(21時間)で行い、受講者は通所・居住・施設系サービスの介護職員として従事できる
- ※8 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 日中・夜間を通じて、訪問介護と訪問看護が一体的にまたは密接に連携してサービスを提供するもの。定期的な訪問だけでなく、随時必要なサービスを受けることができる
- ※9 看護小規模多機能型居宅介護 退院直後やがん末期など医療ニーズの高い利用者の状況に応じて、通いや訪問、泊まりなど多様なサービスを組み合わせて療養支援を行うこと
- ※10 地域包括支援センター 高齢者の医療・介護・保健・福祉などの様々な悩みに答える総合相談窓口。介護や医療に関する専門知識をもった職員が、介護サービスや日常生活支援などの相談にあたる
- ※11 地域密着型サービス 要介護者の住み慣れた地域での生活を支えるため、身近な市町村で提供されるのが適当とされたサービスのこと。定期巡回・随時対応型訪問介護看護や認知症対応型通所介護などが含まれる

一誠会が 目指す 未来像

未来を創り続ける社会福祉法人として

一誠会は、人の命を守る仕事に誇りをもち、絶えず介護サービスの質の向上に努め、未来に向かって進化させて「幸せ」をつくっています。

現在、国が進めている地域包括ケアシステムは、高齢者の方々が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、「医療」「介護」「予防」「住まい」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供される社会の実現です。

一誠会では、この地域包括ケアシステムを「絵に描いた餅」に終わらせず、真に実現するため、現在八王子市内で13の介護サービス事業所を通じて幅広い介護サービスを提供すると共に、高齢者が安心して生活することができる住まいとしてサービス

付き高齢者向け住宅を整備しています。それに加えて、スタッフや地域住民などが安心して働き続けられるように企業主導型保育所も展開しています。

また、2014年からは独居高齢者などの見守りを兼ねた配食サービス、健康寿命の延伸を図るための介護予防教室など、地域貢献を目的とした地域公益活動にも力を入れています。

さらに、一誠会を利用される方々が安心してサービスを受けられるよう、すべての事業所において品質の国際規格であるISO9001の認証を取得しています。

2020年度には、地域包括支援センターの開設、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサテライト施設の設置も予定しています。

一誠会は、これからも地域の方々の良きパートナーとして、「一層「信頼」を大切にしながら、常に前進し、新たなモノを求めて自らが未来を切り拓き、新しい価値を創出する未来創造の社会福祉法人でありたいと思っています。

初音の杜
グループホーム

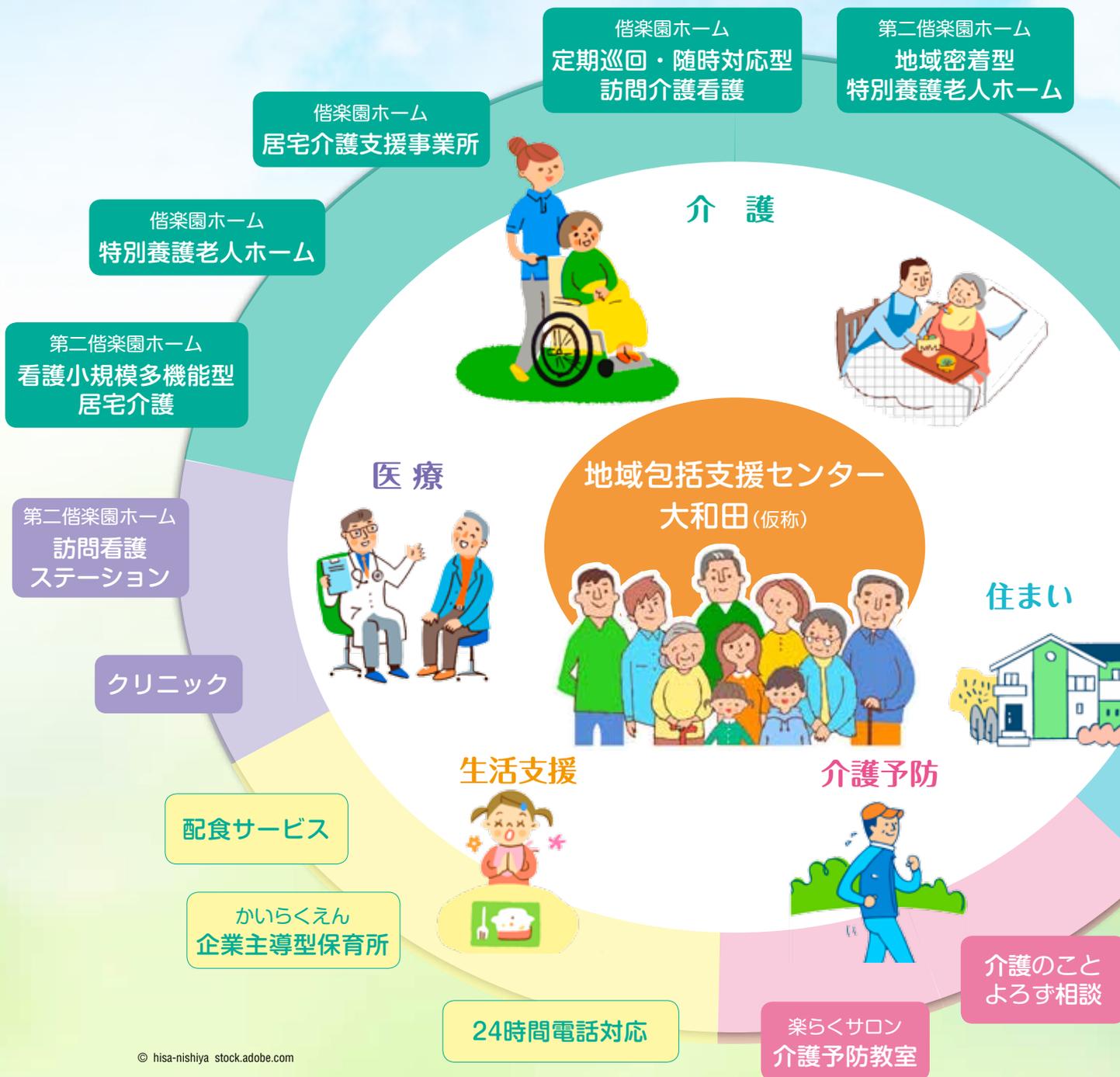
初音の杜
認知症対応型
デイサービスセンター

初音の杜
地域密着型
デイサービスセンター

偕楽園ホーム
第二偕楽園ホーム
短期入所生活介護

第二偕楽園ホーム
サービス付き
高齢者向け住宅

一誠会の地域包括ケアシステム



一誠会が目指す地域包括ケアシステムとは

一誠会では、地域の高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう「介護」、「医療」、「予防」という専門的なサービスと、その前提としての「住まい」と「生活支援・福祉サービス」が相互に関係し、連携しながら在宅の生活を支える地域包括ケアシステムの実現に努めています。

\\ 一誠会で働く仲間たち //

多様な専門職がサポート

一誠会では様々な職種の人が働いています。

ここでは、そんな一誠会の仲間がどのような思いをもって、どんな仕事をしているのかを紹介します。



介護職員

ご利用者の方々が
幸せを感じられるような
ケアを目指して



安心して生活でき、施設に入所しても、夢や希望を持っていただけるように、介護課では24時間交替勤務で、他職種と連携しながらより良いケアの提供を目指しています。入浴、食事、排泄などのお世話をするため、大変な仕事というイメージがあります。しかし、目の前にいる方の幸せを考え、笑顔にすることができ、私たちも笑顔になれる素敵な仕事です。

また、定期的に行事を開催するほか、ボランティアの方々との協力で、毎月のクラブ活動・外出などレクリエーションを行います。日々の楽しみにつなげています。



機能訓練指導員

エコシステムとしての
リハビリテーションで
ご利用者を支える



リ ハビリテーションの語源は「re(再び)」と「habilis(適した)」という語で、訓練のみを指すのではなく「再び社会に適応し生活できる(復権)」であると言われていています。特養やデイは大きなエコシステム(生態系)であり、ご利用者がそこに適応されるお手伝いをするのが、私たちの使命です。

この中で最も大切な構成要素は現場の介護職員さんですから、「その時、その場で」現場の問題に「言葉」ではなく「体」でぶつかり、時には冷や汗をかきつつお手本となり、時には共に解決を目指します。



ケアマネジャー

介護保険を利用して
住み慣れた自宅で
過ごせるように



介 護保険といっても、お元氣なうちはあまり馴染みのないものかと思えます。私どもケアマネジャーは居宅介護支援事業所において、自宅で過ごされている方で要支援・要介護の認定を受けた方に向けた支援を行っています。

住み慣れた自宅での生活を安心して過ごせるようにすることを目的として、在宅での生活における困りごとに対し、介護保険サービスや地域の社会資源を活用して、その人がその人らしく生活できるようにするための、様々な相談に乗っています。



看護師

個々の状態に合わせて
ご利用者の健康を
支える専門職



高 齢者施設の看護師の役割は主に健康管理です。検温・服薬管理・通院同行・注射・採血などを行っています。病院とは異なり基本的に重篤な症状の方は入所していないため、一人ひとりと向き合い、個々の意向に添って持病があっても元気に生活できるように、細かい部分まで看護に携わること心掛けています。しかし、ご利用者の中には自分で体調の変化を伝えられない方もいますので、介護職員などと協力しながらご利用者の状態変化を観察し、必要時の医師診察や緊急時対応を行っています。



管理栄養士

元気な姿を支えるため
おいしい食事と
健康を両立させる



栄 養課ではご利用者の栄養管理を行っています。栄養ケア・マネジメントにより、低栄養などのリスクを踏まえた栄養ケア計画の作成、計画書に基づいた食事の提供などを、ご利用者の様子を見ながら行っています。また、当施設ではお花見会食や敬老会食、クリスマス会、おやつバイキングなど季節ごとに行事食を提供し、食事を通して施設生活を楽しんでいただけるよう取り組んでいます。「おいしかった」と喜んでいただけたり、食べる意欲が出て元気になった姿を見ると、やりがいを感じます。

生活相談員・ ケアマネジャー



ご家族やご利用者と
ホームを
つなぐ窓口として



相 談支援課ではご利用者のケアプランの作成や、通院の付き添い、これから入所を検討されている方の施設見学の対応など、様々な業務を行っています。

また、相談援助の専門職として、ご利用者からの相談に乗ったり、ご家族からの相談や要望に応えるのも相談支援課の仕事です。現場職員やご利用者本人の要望を受けて、ご家族へ連絡を差し上げる窓口としての役割もあります。ご利用者の生活がより良いものとなるよう、多職種協働の要として頑張っています。



保育士

預かるだけじゃない！
やる気を引き出す
保育のプロがいます



私 達は、子どもにとって良い保育を提供することを常に考えています。子どもの発達を考える先生、保育と調理ができ、いろいろな視点から子どもを見れる先生、制作やイラストが得意な先生、手芸が得意で衣装をつくれる先生、子育て経験豊富な先生など、それぞれの持ち味を活かし、自分らしく輝きながら保育ができる環境です。子どもの成長を保護者とともに喜び合い、子どものやりたいという気持ちを引き出し、成長してもらいたいと思っています。

素敵な保育所になれるよう、頑張ります。

若手・中堅クロストーク

一誠会の魅力ってなんだろう

多様な
研修がある

コミュニケー
ションが
とやすい

法人外でも
活躍中



くぬぎ ま り
桐麻里さん

偕楽園ホーム
入職 19 年目

た な べ あ や か
田名部彩香さん

偕楽園ホーム
入職 5 年目

さ と う ゆ う や
佐藤佑哉さん

偕楽園ホーム
入職 2 年目

か と う じ ゅ ん
加藤順さん

初音の杜
入職 15 年目

4人の介護職員が一誠会で働く中で感じている、法人内外問わず活動できる職場環境といった当法人の魅力などを語り合います。また、勤続年数や年齢、経験も違う職員それぞれの視点で、働きやすい職場についても考えます。

**時間を上手に使い
ご利用者と交流する**

——勤続年数が異なる4人に集まっていたいただきました。皆さんが現在、働く中で意識していることは何ですか。

佐藤 ● 自分は一昨年、高校の普通科を卒業して一誠会に入職しました。介護について勉強していたわけではないので、働きながら日々勉強中です。2年目に入ってから、少しずつ「慣れ」が出てきました。今はこの慣れが課題の一つになっています。ご利用者に対して、親しみを持って接してしまつた結果、友達口調になってしまうことがたびたびありました。

加藤 ● 私は今年で一誠会に入つて15年目になるのですが、自分もご利用者に対して友達口調になつてしまいがちな時期がありましたよ。年数を重ねていけば自然と使わなくなるものでもないとと思うので、心がけが大事。何年経つても、ご利用者への敬意は意識しないとダメですね。

田名部 ● 私は、現在5年目ですが、4年目の夏に主任になりま



した。主任になってからは、業務をこなすことに精一杯で、ご利用者との時間が以前よりも減ってしまいました。経験を重ねて、できることも任せられることも増えてきましたが、メイン業務のご利用者との時間がなかなか取れず、もどかしさを覚えることがあります。

梶 ●ご利用者との時間は、つく

ろう」とすると、調整を考えた
り、それがうまくいかなかった
りで、つらくなってしまおうから、
時間を見つけたことが大切だと
思うよ。私も係長という役職に
就いていますが、ずっと隙間な
く仕事をしているわけではない
ので、ちよつとした時間を見つ
けて、ご利用者とのコミュニ
ケーションを取るよう意識し
ています。時間をうまく使って
いくことが大切です。

多くの研修で学び 実践に活かす

—働きながらスキルや知識を
身につけるのは、大変ではない
でしょうか。

田名部 ●一誠会では、感染症や
看取りなど様々なテーマで研修
を行っているので、実務以外で
も知識やスキルを身につけられ
ます。個人的には看取りの研修
が印象に残っており、実際の看
取りの時にも、研修で学んだ対
応や心構えを思い出して動けま
した。

佐藤 ●自分も法人内外問わず
様々な研修に出ています。基
礎的なものから経験に合わせた

ものまであるので、介護につい
て初心者だった自分にとっては
ありがたいです。日常業務と合
わせて、研修を使いながら介護
の勉強を進め、3年経った時に
介護福祉士の資格が取れるよう
に頑張ります。

梶 ●一誠会として、また自分の
いる部署として、介護力の底上
げや均等化を図ることが現在の
課題です。研修を活用して知識
を増やすことも、その対策の一
つだと思っています。学んだこ
とは、しっかりと現場にフィード
バックすることが大切。研修
に出て終わりではなく、現場で
実践し、学んだことを身につけ
ていってほしいな。

加藤 ●私は課長として、職員一
人ひとりの日々の業務の様子を



見て、職員の希望も聞きながら、
それぞれの資格取得やキャリア
アップについて計画を立ててい
ます。学んだことは現場で活か
すという点は大事ですね。

人間関係が良好 制度も整い働きやすい

—職場内の雰囲気を教えてください。

田名部 ●些細なことでも、誰か
に相談してみようと思える雰囲
気があります。人間関係の面で
恵まれているなと思います。相
談できる環境であることが、一
緒に仕事をするチームとしての
力を高めています。

梶 ●私も悩んだときに、職場の

仲間にも救われたことがあります。田名部さんが言うように、コミュニケーションはしっかりと取れている職場だと自負しています。

加藤 ● 会議や打ち合わせなどを通して、お互いの意見や考えもきちんと言ひ合える関係がつくれているんじゃないかな。

——働きやすさについては、どのように考えていますか。

柗 ● 産前産後休業や育児休業も取りやすいので、結婚や出産を経て復帰する人も多いです。ライフイベントと両立しながら働ける職場で、働きやすいと思います。

加藤 ● 2018年には第二借楽園ホームに企業主導型保育所がいらくえんができたので、さらに産後の職場復帰がしやすい環境になったのではないかと思います。

田名部 ● 働きやすい職場ではありませんが、正直、辞めたいと思っただことがないわけではないです。しかし、同じ職場の人に支えられたり、また「この人（ご利用者）ともう少し一緒にいたい」と思えたりしたことで働き



介護については何も知らなかった。今は土台をつくる大事な時期なので、大変だけれども日々の業務や研修を活用して精一杯勉強しています。

佐藤さん



法人の外での活動も含めて、いろいろな経験をしてきました。ほかの法人の職員との交流に刺激をもらいました。

田名部さん

続けてこられました。

佐藤 ● 私はまだ辞めたいと思っただことはありません。いろいろな人が支え、助けてくれたので、ここまでこられました。できることが少しずつ増えてきて、自分も一誠会のチームの一員だと思えるようになりました。

加藤 ● 私は一度、ケガをしてしまった際に、辞めなければいけないかと考えたよ。当時は借楽園ホームに勤務していたのですが、ケガや身体の状態を踏まえて、日勤だけの初音の杜に異動させてもらったことで、現在まで一誠会で働き続けられています。当法人は、特別養護老人ホームとデイサービス以外にも、看護小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護など介護だけでも様々な事業を行っているの、自分に合った働き方ができる職場を選べます。

地域の人や他法人とも積極的に接点を持つ

——様々な事業を行っているのも一誠会の魅力の一つだと思いますが、皆さんはどのように感じていますか。

佐藤 ●多事業展開のメリットは、一誠会について知ってもらえる機会が多いということだと思います。いろいろな事業を入り口にして、一誠会のほかのサービスについても知ってもらえるのではないのでしょうか。

加藤 ●2020年度はさらに、地域包括支援センターの運営を市から受託しました。様々な事業を行っている当法人だからこそ、要介護状態になる前の人にも、要介護状態の人にも対応でき、サービスについて相談者に様々な提案ができると思います。

——仕事を通じて、職場以外の方と会う機会などはあるのでしょうか。

梶 ●一誠会で行うイベントに近所に住んでいる方が来てくれたり、日常的に地域の人がボランティアとして訪れているので、職員やご利用者以外の方との接点が多くあります。様々なボランティアの方があるので、レクリエーションもバラエティーに富んでいます。

加藤 ●地域のお祭りや消防団などにも参加しており、介護に関



多事業展開でいろいろな働き方ができるようになった。ケガをした際も、異動することで働き続けられました。

加藤さん



一誠会としてのさらなる介護技術の向上を目指しています。研修や勉強会は、実践に落とし込まなければ意味がないです。

梶さん

係のない地域の人とも接点があります。

梶 ●前にも出ましたが、外部研修やイベントにも参加する機会が多くあります。田名部さんも、外での活動として、東京ケアリーダーズに参加していたよね。

田名部 ●はい、一誠会の代表として東京ケアリーダーズ^{※1}という、東京都の若手介護職員の活動にも参加していました。実際に参加して、他法人の若手職員と交流できる貴重な経験が得られました。

佐藤 ●外部研修では一誠会の中にあるだけではできないことも経験できるので、学ぶことが多くあります。日々の仕事につなげられるように、これからいろいろなことに挑戦したいと思います。

加藤 ●一誠会の主催でない地域行事への参加や法人外の人との交流は、一誠会を知ってもらえるチャンスだと思います。いろいろな機会を活かして、積極的に地域の人たちや他法人の人とかわり、より良い介護の提供につなげていきたいですね。

※1 東京都内の高齢者福祉施設・事業所で働く若手介護職員によるユニット。自分たちの言葉で「介護の仕事の魅力」を伝えることを目的に活動しています。

数字でわかる一誠会

一誠会の職員やご利用者に関する数字を集めました。
一誠会の特徴やカラーが、これらの数字から見えてきます。

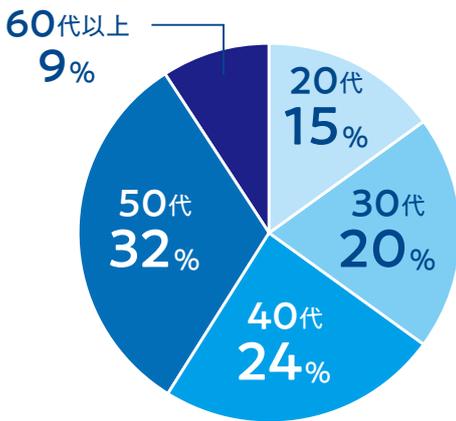
職員数

162 (人)
うち外国人介護職員 3人

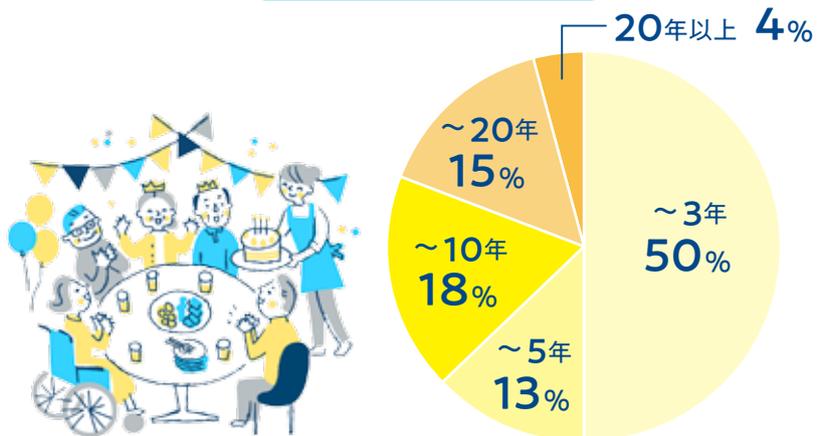
男女比

男性 4 : 6 女性

介護職員の年齢分布



全職員の勤続年数



ご利用者の男女比率

3 : 7
男性 女性

面会者数

127 (人)
令和元年12月1日~31日

ご利用者の平均要介護度

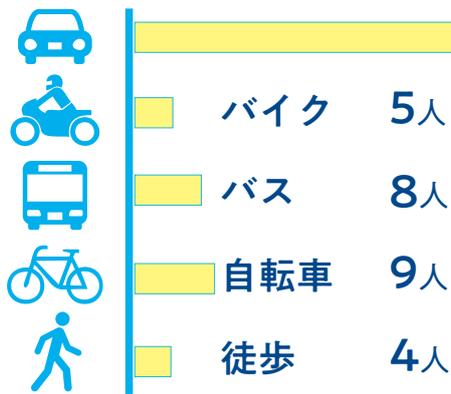


3.9

※特別養護老人ホーム偕楽園
ホームのご利用者の平均要
介護度



通勤手段



1位は
ダントツで車

介護福祉士取得者数



市内在住職員

112 (人)

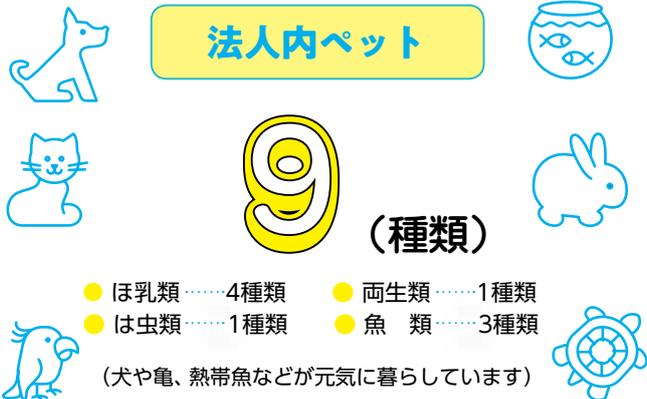
市外在住職員

50 (人)

うち入職後取得者

25 (人)

法人内ペット



ボランティアさん(延べ活動人数)

144 (人)

- ★ 偕楽園ホーム：35人
- ★ 初音の杜：84人
- ★ 第二偕楽園ホーム：25人

令和元年12月1日～31日

※特に表記のないデータは令和元年12月現在のものです

仕事もプライベートも両立できる！

一誠会で働く1日

一誠会では、介護職をはじめとした様々な職種の人が様々な働き方をしています。ここでは、4人の職員のある1日を紹介します。

介護

通所介護

織田澤有香さんの1日

8:30 出勤

9:00 お出迎え・送迎

10:00 朝の会・回想法

日時の認識や「おとなの学校^{※1}」を取り入れ、ご利用者との会話を楽しみながらサービスを提供します。

12:00 食事介助・見守り

13:00～14:00 休憩

14:00 レクリエーション・個別活動

ご利用者に楽しんでいただくために工夫した複数のプログラムを用意して、運動不足とストレスの解消を図ります。またご希望のあるご利用者に、化粧セラピー^{※2}も実施しています。



15:00 おやつ

16:00 お見送り・送迎

送迎中はご利用者と積極的に会話をします。いろいろなことを教えていただく良い機会です。



17:30 記録・退勤

介護

特別養護老人ホーム

上村那智さんの1日

9:00 出勤・朝礼

10:00 ブチミーティング（申し送り）

10:30 排泄介助

12:30 昼食配膳・食事介助

食事はご利用者が楽しみにしている時間なので、楽しい雰囲気づくりを心がけています。服薬介助、食事量のチェックなど、緊張感があります。



13:00 口腔ケア

13:15～14:15 休憩

14:30 レクリエーション（クラブ）

月に一度開催される華道クラブを担当しています。季節に合ったお花を生けてもらい、毎月記念撮影を行っています。



16:00 外部研修（東京ケアリーダーズ）

他施設の職員と一緒に学び、交流を深めています。活動は、2カ月に一度の定例会と、東京都高齢者福祉施設協議会のイベントのお手伝いなどです。



18:00 退勤

※1 「学校」をコンセプトとして高齢者向け教科書を使用し、高齢者の生活意欲や自立意識を高めることを目的とした、認知症高齢者でも「学ぶ場」を提供する活動です。
※2 お化粧をすることを通じて、心理的・社会的・生理的効果を活用してQOL＝生活の質の向上を目指すケア手法です。

まるやま・あゆ

2018年、入職。個人差のある子どもの発達を丁寧に見て、子どもにとって自ら意欲や好奇心を持てる安心な存在になれたらと思っています。



たなか・けんたろう

2004年、入職。未経験で福祉業界に飛び込んで、はや15年。いまだに日々勉強の毎日です。



おだざわ・ゆか

2014年、入職。下の娘が1歳になった頃、入職しました。その娘も今は小学校1年生。子育てと仕事を両立し、家庭も仕事もプライベートも楽しんでいます。



かみむら・なち

2018年、入職。2年目の介護福祉士です。仕事で悩んだ時にご利用者の笑顔で元気をもらっています。



保育

企業主導型保育所 丸山亜由さんの1日

8:00 出勤

8:30 お預かり

保護者から子どもの体調や様子を聞いたうえで、子どもと楽しい雰囲気でお見送り。



9:00 朝の会・おやつ・散歩

個々の子どもの主体性を認めた保育を行います。基本は、外遊び。自然を通して五感を刺激し、身体をたくさん動かし、丈夫な身体へと育てます。



11:00 子どもたちの昼食

12:00 お昼寝・連絡帳記入

午睡中は、連絡帳や保育日誌を記入するほか、乳児突然死症候群(SIDS)を防ぐために5分おきのチェックの記入も行います。



13:00 ~ 14:00 休憩

15:00 おやつ・お帰りの会・お見送り

16:30 打ち合わせ

17:00 在園児の引き継ぎ後、退勤

相談

居宅介護支援事業所 田中健太郎さんの1日

9:00 出勤

9:30 メールや予定のチェック

面接や施設見学、ケアカンファレンスや通院等の予定を確認し、相談支援課内で業務の割り振りを行います。



10:00 面談

事務所に来てくださったご利用者が、いろいろなお話をさせていただきます。ご利用者の話に耳を傾け、様々な要望に応じていきます。



12:00 ~ 13:00 休憩

13:00 ケアプランの作成・事務作業

16:00 カンファレンス

介護サービスにおいて、一番の肝と言って良いかもしれません。多職種協働で行います。偕楽園ホームのカンファレンスは、多くのご家族にも参加していただいています。



17:00 打ち合わせ

18:00 退勤

地域の一員として この町と共に歩む

一誠会が行っている地域貢献活動を紹介します。
施設内にとどまらない取り組みを
通じて、地域に貢献しています。

一誠会の地域貢献活動



暮らしを支える

地域にお住まいの方々に、一誠会の機能を活かした様々な活動を行っています。活動を通じ、地域の方々がボランティアとして施設の取り組みに参加していただけるようになるなど、地域の方々との顔の見える関係づくりにもつながっています。



地域交流会

家庭で介護している地域の方などに向け、月1回、参加費無料で、介護や福祉などの講座を開催しています。



配食サービス

独居高齢者の世帯などに、安否確認を兼ねて食事を届けます。月曜日から土曜日にお届けしています。



楽しくサロン(介護予防教室)

毎週火曜日、理学療法士を中心に介護予防のための体操を行っています。また、食事も召し上がっていただいております。地域の方々も交流する場にもなっています。



介護のことでよろず相談

ケアマネジャーが地域の公民館や第二借楽園ホームで、介護をする家族が抱える悩みなどに応える相談会を定期的に開催しています。



生活支援

お一人では移動が困難な方の受診の送迎や買い物代行などを行う、インフォーマルなサービスです。

発信する



近隣の社会福祉法人と共催で、楽しく介護の魅力を知っていただくために、講演会や介護体験などのイベントを行っています。八王子市の後援もあり、医療機関や地域包括支援センターと協働して開催しています。

八王子介護フェア（講演会・介護体験）



若松神社例大祭

毎年9月に行われる若松神社の例大祭の宵宮(前夜祭)では屋台の出店、本宮では職員でおみこしを担がせていただいています。

地域に協力



地域の活性化にもつながるように、地域の行事にも積極的に職員が参加しています。法人と地域の方々とのつながりができ、相互で支え合う関係性がつくられるようになりました。



消防団入団

施設職員が地域の消防団に入団しています。地域の防災活動にも参加し、安心・安全に暮らせる町づくりに貢献しています。



宮下町盆踊り大会

準備から職員が参加し、会場の設営を手伝い、屋台を出して協力しています。



一誠会の毎日を彩る

魅力あふれる ボランティア活動

一誠会では、様々なボランティアの方々にご来園いただいています。音楽やお花、手品などバラエティーに富んだ活動で、ご利用者の日々の生活に彩りを添えます。そんなたくさんの方々のボランティア活動の中から一部を紹介します。



書道

ご利用者**参加型**の
支援**ボランティア**



傾聴

ご利用者の**生活**を
支援する**ボランティア**



マジック



日本舞踊



健康音楽



歌朗読



華道



民謡



茶道



オカリナ



アコーディオン

レクリエーション
を支援するボランティア



歌遊び



わらべうた



ハーモニカ

ほかにもたくさんのボランティア
の方がいらっしゃいます。
いつもありがとうございます。



カラオケ



火曜コンサート

施設概要



- **特別養護老人ホーム 偕楽園ホーム** 定員:100人
(法人本部/特別養護老人ホーム/短期入所生活介護事業)
TEL. 042-691-2830 FAX. 042-691-8288
- **偕楽園ホーム 居宅介護支援事業所**
TEL. 042-696-5238 FAX. 042-691-8288
- **偕楽園ホーム 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所**
- **偕楽園ホーム 夜間対応型訪問介護事業所**
- **偕楽園ホーム 訪問介護事業所**
TEL. 042-659-3366 FAX. 042-691-8288
〒192-0005 東京都八王子市宮下町983番地



- **デイサービスセンター初音の杜** 定員:18人
(地域密着型通所介護事業所/介護予防・日常生活支援総合事業)
- **デイサービスセンター初音の杜** 定員:12人
(認知症対応型通所介護事業所)
- **グループホーム初音の杜** 定員:2ユニット18人
(認知症対応型共同生活介護事業所)
(1ユニット9人)
TEL. 042-691-8289 FAX. 042-692-1772
〒192-0005 東京都八王子市宮下町988番地



- **地域密着型特別養護老人ホーム 第二偕楽園ホーム** 定員:29人
- **第二偕楽園ホーム 短期入所生活介護事業所** 定員:9人
TEL. 042-691-0913 FAX. 042-691-1870
- **第二偕楽園ホーム 看護小規模多機能型居宅介護事業所**
登録定員:29人(通い18人、泊り9人)
TEL. 042-691-1866 FAX. 042-691-1870
- **第二偕楽園ホーム 訪問看護ステーション**
TEL. 042-691-1867 FAX. 042-691-1870
- **第二偕楽園ホーム サービス付き高齢者向け住宅** 部屋数:12室
TEL. 042-691-1866 FAX. 042-691-1870
- **企業主導型保育所 かいらくえん** 定員:11人
TEL. 042-691-1868 FAX. 042-691-1870
〒192-0004
東京都八王子市加住町一丁目18番地



◆ 編集後記 ◆

このたび、借楽園ホーム開設40年を迎えました。この記念すべき日を迎えることができたのもひとえに、開設以来、ご支援、ご協力いただきました地域の皆様方をはじめ、努力を積み重ねた先人の方々のおかげであると心より感謝申し上げます。

この記念誌を発行するにあたり、40年を迎える時期に広報誌である『黎明』が100号を迎えることと重なり、これまでを振り返ることに加え、未来の一誠会をお伝えすることを観点に企画いたしました。

4月には八王子市より受託した地域包括支援センター大和田(仮称)の開設を予定しています。一誠会を担う人材を確保する意味でも、あらゆる世代の方々にご覧いただきたく存じます。

記念誌を発行するにあたり、ご尽力、ご協力いただきました皆様方、御多忙中にもかかわらず玉稿をいただきました皆様方に深く御礼を申し上げます。

結びに、40周年記念誌を発行できましたことに、心より感謝申し上げますとともに、50周年に向けて、鋭意努力して参ります。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

一誠会広報委員会

社会福祉法人一誠会40周年記念誌

発行

社会福祉法人一誠会

発行日

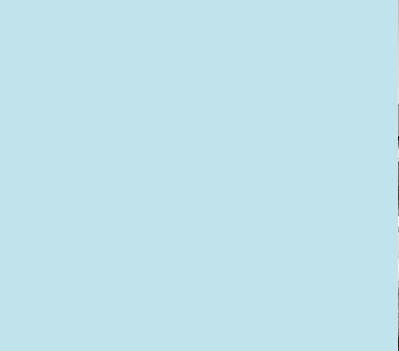
2020年 2月15日

企画・制作

一誠会広報委員会

印刷・製本

図書印刷株式会社



社会福祉法人一誠会
<http://www.kairakuenhome.or.jp/>



ISO9001 認証取得

